

奈良文化財研究所 第2回中央アジア旧石器研究集会

天山山脈から 古日本列島へ

ユーラシア広域編年の可能性

日時

2019年

1月17日 木 13:00-17:30

奈良文化財研究所平城宮跡資料館小講堂 奈良市佐紀町247 - 1

13:00～13:20 挨拶（西秋良宏 東京大学総合研究博物館教授）
趣旨説明（国武貞克 奈良文化財研究所主任研究員）

第1部 キルギス

13:20～14:30 基調講演

「チュー渓谷：クラマ遺跡の発掘調査」

講師：大沼克彦（国士舘大学名誉教授）



第2部 カザフ スタン

14:40～15:30 報告

「天山北麓：クズルアウス2遺跡の発掘調査」

講師：国武貞克

第3部 ウズベキ スタン

15:30～16:30 報告

「カシュカダリヤ渓谷：アンギラク洞窟の発掘調査」

講師：西秋良宏

第4部

16:40～17:20 討論

「ユーラシア広域編年の可能性」

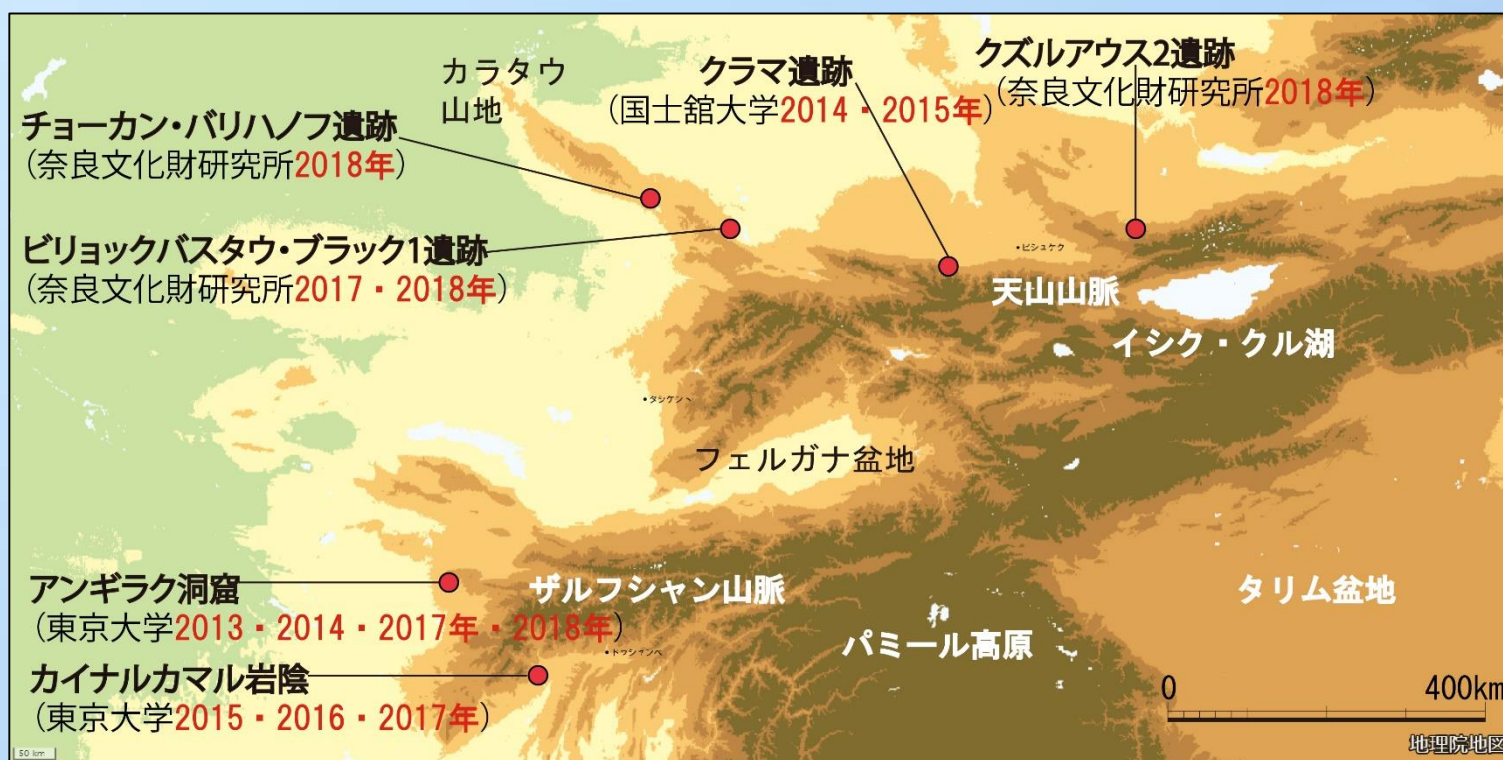
進行：加藤真二（奈良文化財研究所企画調整室長）

17:20～17:30 総括：西秋良宏

趣旨説明(国武)

現生人類の拡散の議論において中央アジアは、西アジアとロシアアルタイとを、カフカス地域と中国西部とを取り結ぶキーエリアです。なかでも、重要な遺跡の多くは天山山脈からパミール高原に至る標高1000-2000mの丘陵地に集中しています。つまり天山ーパミール地域の丘陵地帯こそが、中央アジアにおける現生人類拡散研究の核心地といえるのです。

近年世界的にも注目されているこの天山ーパミール地域において、日本隊による調査成果が目覚ましく増加しており、多くの新しい情報が獲得されつつあります。当研究集会では、これらの情報を参加者で共有し、ユーラシア旧石器研究の今後を展望します。



日本隊により発掘調査された天山ーパミール地域における旧石器時代遺跡の分布

	ウズベキスタン	キルギス	カザフスタン
2013年	アンギラク洞窟発掘調査 (東京大学) ナヴォイ・オアシス分布調査 (東京大学)	クラマ遺跡試掘調査 (国士舘大学)	
2014年	アンギラク洞窟発掘調査 (東京大学)	クラマ遺跡発掘調査 (国士舘大学)	
2015年	マチャイ溪谷分布調査 (東京大学) カイナルカマル岩陰試掘調査 (東京大学)	クラマ遺跡発掘調査 (国士舘大学)	
2016年	カイナルカマル岩陰発掘調査 (東京大学)		
2017年	カイナルカマル岩陰発掘調査 (東京大学) アンギラク洞窟年代試料採取調査 (東京大学)		カラタウ山地分布調査 (奈良文化財研究所) 天山北麓広域分布調査 (奈良文化財研究所) ビリョックバスタウ・ブラック1遺跡試掘調査 (奈良文化財研究所)
2018年	アンギラク洞窟発掘調査 (東京大学)		チョーカン・バリハノフ遺跡発掘調査 (奈良文化財研究所) ビリョックバスタウ・ブラック1遺跡発掘調査 (奈良文化財研究所) クズルアウス2遺跡発掘調査 (奈良文化財研究所)

天山ーパミール地域における日本隊による旧石器時代遺跡の野外調査一覧

【第1部キルギス】基調講演

チュー渓谷：クラマ遺跡の発掘調査 大沼克彦 国士舘大学名誉教授

天山北麓地域で日本隊が初めて実施した旧石器時代遺跡の発掘調査です。2011年に発見されたこの遺跡では、2014年と2015年に発掘調査が実施され、分厚いレスの堆積層中から後期旧石器時代前期の良好な石器製作跡が多数累積して検出されました。

その成果は今後、ウズベキスタンやロシアアルタイ地域との比較の上で、中央アジアの後期旧石器文化を理解するために極めて重要であるといえます。調査成果の概要をご講演いただきます。

【第2部カザフスタン】報告

天山北麓：クズルアウス2遺跡の発掘調査 国武貞克 奈良文化財研究所

天山北麓地域は、中央アジアの東西をつなぐ興味深い地域ですが、これまで後期旧石器時代の多層遺跡は2か所しか見つかっていませんでした。そのため2017年に広域を踏査して発見した遺跡のひとつです。

2018年に発掘調査を実施したところ、後期旧石器時代前期の石刃石器群が累積して見つかりました。炉跡も複数見つかり、生活痕跡が良く保存されている内容の豊富な重要遺跡であることが判明しました。調査成果の概要をお話しします。

【第3部ウズベキスタン】報告

カシュカダリア渓谷：アンギラク洞窟の発掘調査 西秋良宏 東京大学教授

中央アジアの旧石器研究は、これまでウズベキスタンの遺跡が基準となっており、国際的な議論においても極めて重要な役割を果たしております。この重要な地域において新たな資料の獲得を目指して、東京大学は野外調査を継続しており、国際的にも大変注目をされています。

中央アジアで日本隊が初めて実施した旧石器時代遺跡の発掘調査は、このアンギラク洞窟の2013年の調査です。ザルフシャン山脈西麓のカシュカダリヤ渓谷に所在するアンギラク洞窟では、近年の調査で大きな進展がありました。その成果を中心に、東京大学によるウズベキスタンの旧石器遺跡調査の概要をお話しいただきます。



ウズベキスタン アンギラク洞窟遠景(西秋撮影)

【第4部】討論

ユーラシア広域編年の可能性 （進行）加藤真二 奈良文化財研究所

現在パレオアジア文化史学プロジェクトでは、東アジアを中心にした広域編年の構築が、加藤を中心に検討されています。そこで中央アジアの編年をこれに接続し、ユーラシア広域編年を組み立てるには、どのような調査や研究課題が残されているのか。課題を広く自由に討論します。



ユーラシアにおける天山-パミール地域の位置

参加：無料、申し込み不要(30名まで)

会場：奈良文化財研究所平城宮跡資料館小講堂

近鉄大和西大寺駅(北改札口)から徒歩10分

